

大飯発電所2号機 炉物理試験の復旧操作における警報の発信について

事象概要

→ : 今回の作動信号

②

予想以上にA～Dループの1次冷却材の温度が下がり、警報設定値(289.4℃)をわずかに下回ったため、「1次冷却材平均温度低低パーシャル主蒸気隔離&安全注入」の警報が発信

1次冷却材平均温度低低パーシャル
主蒸気隔離&安全注入

Aループ

温度検出
回路

Bループより

温度検出
回路

Cループより

温度検出
回路

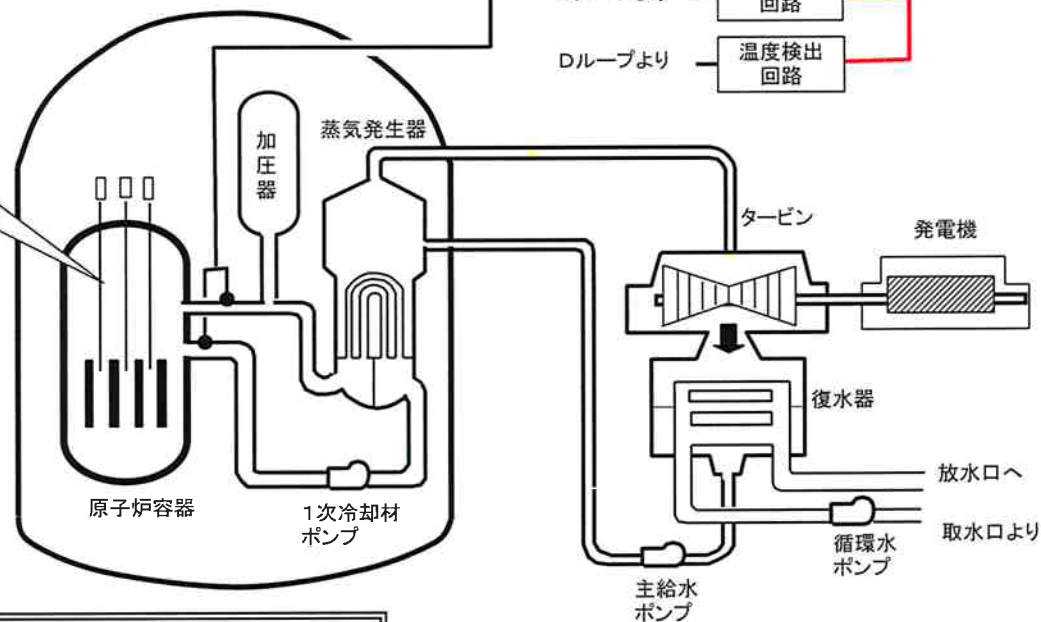
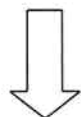
Dループより

温度検出
回路

原子炉格納容器

①

試験実施後、原子炉出力を1～2%から0%に戻すため、制御棒の挿入操作を実施(16時46分～53分にかけて制御棒を222ステップから195ステップまで挿入した)



挿入操作については、時間間隔を十分取るべきであった